

Challenge 『ボート』 BOATRACE

7月24日AM6:00、早起きには不似合な連中が境の竜ヶ山陸上競技場のパーキングで何やら話をしている。「実物、見たことあ〜だか?」「ねえ〜わ」「いったいどげなもんだ?」何やら化物の正体についてのお互いの認識度を探りあっている様である。その化物の正体とは第24回境港ボートレース大会に使用する船のことである。

事の始まりは、過日行われた総会の2次会での酒席、鳥取県漕艇連盟審判部長を務めているという安藤義人会員との雑誌の中での阿部直前会長のお戯れ発言からであった。誰もが直前会長の戯言と一応調子を合わせていた様に記憶しているが、大会に参加するだけでなく練習もしようということになったらしく、前述の赤紙召集となった。その不幸の手紙を受けとったのは、景川・里道・浜田・浜(徳)・浜(義)、更にコーチとして安藤・金田両氏であった。(他、当日メンバーとして角田、岩田、樋口、足立(達)、足立(聡)このメンバーどう見てもお人好しで、NO!と言えない性格らしい。阿部直前はどうかといえ、赤紙召集令状よろしく、自作オリジナルユニフォームを一人一人に手渡ししてご満悦である。安藤コーチの指導のもと、全長約7mの船におそろおそろ乗り込む。何しろボートのイメージといえば、海の家での貸ボートしかない。不安定な船上でオールさばきままたまらず、動くことすら難しい。「ともかく4人全員が一緒に同じリズムで漕ぐことが一番大切」ということを安藤・金田両コーチに頭にたたき込まれ練習ラウンドを終えた。



ここで今回出場するボートレースについて説明しておこう。ナックルフォールと呼ばれるレースで漕手のローヤー4人にコックスと呼ばれる舵取1人を加えた計5人が1チーム。今回はなんと2チーム、我が西部青年中央会から送り込もうという乱心ぶりである。そして7月28日大会当日、一回練習したメンバーが強いチーム「友愛」、していないメンバーが弱いチーム「英知」と安直に班編成が行われた。何

故自分が弱いチームにまわされたかなどと文句を言う前に、何をしに来たのかもわからない会員は、口々に船の大きさに驚きの声をあげ、不安の表情である。中には前夜オリンピックの漕艇競技を見てイメージトレーニングをして来たという強がる者がいたが、どうにも心もとない。そして一回戦、阿部直前をコックスとした自称強いチーム「友愛」のメンバーが船に乗り込む。おそろいのユニフォームの背中に光る SUPPER GREW の文字がやけに恥しい。

今回のレースポイントは、何はさておきスタートラインにたどりつくこと、そして完走することであるが、ともかくにもジタバタしながらスタートラインについた。安藤審判長のスタートの合図を待つ。突然誰もが無口になる。それなりに集中しているのである。「スタート」の合図でクルー全員がいっせいに漕ぎ出す。見事なスタートだ!確かに練習のかいがあったのだ。5人の力が一つになり、船は海面を滑る様に進み加速した。クルー全員が風を感じた。と、その時、審判長安藤氏からスタートのやりなおしの合図、どうやら一番岸側の船にトラブルがあったらしい。この時既に西部青年中央会「友愛」チームの勝負は終わっていた。全長300mのコースを漕ぎきる為には体力の消耗は極力避けなければならなかったことは言うまでもない。

2度目のスタート、全くリズムがあってない、何故かクルーのまわりの空気が重い。コックスの阿部直前の「キャッチ!キャッチ!」という声がむなしくひびく。ようやくゴールにたどりつく。戦前の予想通り、取りを務めあげた「友愛」チームは観客からおしめないあわれみの拍手をあげながら、戦いを終えた。

そして弱方の「英知」チームを応援する。海面を漂流するがごとく動く船は、水面に落とされた昆虫が手足をジタバタと動かし続けている様にはしか見えなかったのは私だけであろうか?レース結果は言うまでもない。こうして西部青年中央会「英知」「友愛」の両チームの無謀な挑戦は終わった。背中の SUPPER CREW の文字だけがやけに周囲の目を引いていたのがせめてもの救いであった。

8月例会案内	日時	8月19日(月) 18:30
	場所	ホテルサンルート米子
	テーマ	「第7次鳥取県総合計画」
	講師	鳥取県企画部企画課 浅田正人氏
	担当	経済委員会

- 8月定例役員会が8月1日(木) 米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は次の通りです。
- (1) 8、9月例会開催の件
 - (2) 中小企業団体全国大会参加の件
 - (3) 新入会員オリエンテーション実施の件
 - (4) ボウリング大会開催の件
 - (5) ジャパンエキスポチケット取り扱いの件
 - (6) トライアスロン次期取組の件
 - (7) 第42回中小企業野球大会西部地区予選参加の件
 - (8) その他
- 尚、詳細は各委員長までご照会下さい。

ご案内
第1回委員会対抗ボウリング大会開催
8月26日(月) 19:00~ 於:ヤングボウル

編集後記
暑い日が続く。今日も38度を越えたようだ。この暑さの中でだれている私だが、今、オリンピックで活躍している選手たちはこんな暑い日も、逆に寒い日もハードにトレーニングしてきたのだろう。私たちが彼らの姿を見るのはオリンピックや世界選手権の放送期間中のみであるが、その大会の一瞬のために数千、数万時間努力してきた選手達には本当に感動させられる。道は違うがスポーツも仕事も自分を高める手段と思う。私も一瞬の満足の為に選手に負けない努力をしたいと思う。

聞いてごしない Part 10

「オーこわ O-157」

7月某日、外出先から事務所へ帰りつき、ホット一息ついていた時の事である。いつも元気な(だけ!)の事務所のオバちゃんが、「スママセン!!」の一言と共に私の室に入ってくるなり、応接セットの長イスにバタンと倒れたのである。私もあつげにとられていると、他のスタッフも心配そうにのぞきにやってくる様子であった。と、その時、件のオバちゃんが一言「救急車!!」とさげんだのである。その一言と同時に事務所の中は大パニック!! まで冷静になれ。先日救命救急講習を受けたばかりの私としては、本人の状況分析とその他の情報収集に当たった。集約すると話しはこうである。昼食後2時間ぐらいたった30分くらい前から少々気分が悪くなって来て、先程から激しい腹痛、下痢、嘔吐になったとの事。私の脳裏にある言葉が浮かんだ「O-157!!」と同時に白衣を着てマスクを付けたオジさん達が事務所中を消毒して回る姿が浮かんで来たのである。「ヤバイ!!」「ピーポーピーポーの救急車なんか来た日にゃ本当にヤバイのである」取りあえず近くの総合病院に電話を入れさせ、状況説明するとすぐに連れて来いと事!病院に駆け付けると、すでに2人のドクターが待ち構えていたのである。そのドクターの1人が「すぐ家の人呼んで!!」と来たもんだ。問もなく、御主人も病院へ駆け付けて、我社の同行した女性スタッフと共にくどくどと質問を浴びせられていたが、私達は取りあえず夕方には無罪放免となった。オバちゃんはそのまま入院となり、私達は不安な日々を送る事になったのである。事件から3日目の朝の事である。件のオバちゃんケロッとして出社なさったのである。ただの食中りだ!! パロー!! 1人で隠れて盗人喰いスーケンダガナー!! [イカルの星]

「自己変革」 — INNOVATION —

雄飛

第22号 1996.8.7 (水)

●発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 ●編集責任者：柴谷 政司 ●会員数：143
●会長：松本 啓 ●印刷：東京印刷(株)

ごあいさつ

「自己変革」 INNOVATION 会長 松本 啓



我が西部青年中央会は昨年創立20周年を迎え、今や鳥取県西部において青年経済団体としての確固たる地位を占めるに至りました。これもひとえにOBの皆様方が英知・友愛・団結の旗のもと、着実に活動されてきた成果の賜物であると認識しております。21世紀にむけて先輩方の築かれた土台の上に新たな会の発展を期し、活動していくことが現会員の我々に課せられた使命であります。

これからの青年中央会について藤居元会長が「中長期ビジョン策定」という形で問題提起され、阿部直前会長は「責任ある行動」を提唱され新しい会の運営を模索し、実行されてまいりました。しかしながら、組織の活性化を左右するのは結局のところその組織を構成する一人一人の意識にあるのではないのでしょうか。近年、経済的にも政治的にも世界的なレベルで大きな変動が起り続け、現在は混沌の時代と言われてます。各社が生き残りをかけて必死に企業活動を行っている今、我々も青年中央会活動の中から少しでも多くのものを得、それを自分の企業にフィードバックするという意識と行動が不可欠であると考えます。会員の皆様にもその点を充分にご認識頂き、従来の枠にとらわれない斬新な発想と行動力で本会の活動にお取り組み下さいますよう宜しくお願い申し上げます。



副会長 赤石 有平

平成8年度・副会長に就任致しました赤石です。中央会活動最期の年にこんな大役を頂き、大きな不安はあるものの、「一生懸命」に徹すれば、たとえ失敗があっても(松本会長、その時はゴメンナサイ!)、私にとってそれも勉強かなという気持ちであります。

さて、今年度私は、2つのテーマを持って中央会活動に臨みたいと考えています。1つは、「時間管理の徹底」です。時間の調整が不得手で、いつも時間に追われている私にとって、お菓子を作ると共に時間を作るという事を通して自分自身も変えてみたいと思います。もう1つは、1年間これまで以上に中央会活動にどっぷりつかり、おおいに楽しみたい(さまざまに...)と思っています。ともかくにも、松本会長はじめ、会員の皆様宜しくお願い致します。



副会長 柴谷 政司

平成8年度、副会長を務めさせていただく事になりました。青年中央会に入会させていただいてから早13年。この間に私の人生にも色々変化がありましたが、その度に、会員の皆様に助けていただき感謝の日々を送らせていただいております。卒業まで後2年、これまでの御恩に報いるつもりでフンバリたいと思います。

担当は超ベテラン山内委員長(入会16年にもなられるそうで...)率いる経済委員会と超マジメ畑中委員長(中央会に入って不良の仲間が出来たそうで...)の広報委員会を担当させていただくことになりました。それぞれの委員会で「地域経済の活性化」「インターネット」等、むずかしいテーマに取り組む事になりました。松本会長の呈示された年間テーマ「Innovation」を旗頭として一年間活動したいと思います。皆様の御協力よろしくお願い申し上げます。



副会長 宮廻 裕和

副会長を拝命いたしました宮廻でございます。昭和60年に入会させていただき、早いもので当会に11年在籍させていただいております。この11年間というものの、アツという間に時間が過ぎていきました。その間、多くの先輩やまた友人といえる仲間をつくらせていただくこともできました。

「袖振れあうも多生の縁」と申します。何かの「縁」があってこの会に入会し、いろいろな人と出会う機会もいただいたわけですから、より多くの会員の方と精一杯活動していきたいと思っています。また、私が担当させていただく委員会は、指導力開発委員会という新しい委員会です。「リーダーシップとは」といったテーマで一年間勉強をするようですが、大変楽しみにしています。松本会長のもと、この一年実り多い年になりますよう頑張ります。



副会長 景川 恭次

平成8年度、松本会長の下で副会長を担当させていただく事になりました景川です。今年度会長のテーマ「Innovation」(変革)を基軸に各委員会にテーマを頂き1年間取り組むことになりました。本年度、総務委員会(松田則一委員長)情報メディア委員会(谷口勉委員長)の2委員会を担当させていただきます。総務委員会には縁の下の役割と会員拡大を考えてもらい、情報メディア委員会には伝達をテーマに広く情報を考えてもらう事になりました。中央会に入会しあるいは活動して行く中で多くの事を学び、思い出作りをして頂けるよう、微力ながら今年度三役の一員として頑張る所存です。今年度の執行部にご声援よろしくお願い致します。



副会長 岩田 慎介

このたび、松本会長のもと副会長を務めさせて頂くことになりました。担当は、政治行政、テーマ「合併」と、社会文化、テーマ「働く女性」の二委員会です。何となく触りたくないような触りたいようなテーマですが、委員長を中心に皆様はりきっていますので期待しております。さて今年度は、「Innovation-自己変革」を基本理念としております。私もプラス思考で、脳内モルヒネをしっかりと分泌して皆様と一緒に成長したいと思っております。微力ではございますが、今年一年、会長を補佐し、精一杯頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

これからの一年 新委員長の抱負

政治行政委員会 里道義郎

今年度の政治行政委員長を、努めさせて頂くことになりました里道です。我が委員会は、昨年度地域ビジョン委員会で勉強してきた「市町村合併問題」を引き続き取り組んでもらいたいと、松本会長より指示を頂きました。どのように合併問題を取り組むかは、これから委員会のメンバーの皆様と相談して決めて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

また、政治行政とは全く関係はありませんが、綱領にうたわれている「友愛と団結」をあわせて勉強したいと思っておりますので、会員の皆様には、御支援、御協力をよろしくお願い致します。

社会文化委員会 浜 徳正

今年一年は「働く女性」をメインテーマに位置付け活動していきたい。現在、働く女性を取りまく環境として、超氷河期といわれる就職問題や社内でのセクハラ問題、雇用機会均等法が施行された後も残る男女の格差の問題や夫婦別姓など様々な社会問題となっているものが数多くあります。これらの問題を様々な職業をお持ちの女性を講師にお招きし、女性の側から見た考え方や意見、また体験談などを伺い、それを基に討論等を行ない、どうすれば男女おたがいに理解し合い、より良い関係を築くことができるのか勉強していきたい。

経済委員会 山内昌之

中央会に在籍して16年、初の委員長という事で抱負を語るよりも、まず何をすればいいのかと言う方が先決で、頭を悩ませている次第です。「経済」という随分大きな土俵ですが、どこからかじりついて行くかより、「経済とは何か」「経済のいろは」から私自身勉強して行かなくてはならないような気がしています。

フラワーパーク、夢みなと博、コンベンションホール等、大きなプロジェクトもありますが、これらの経済波及効果等も勉強して行くべき問題ではないかと思えます。

一年間で、何がどれ位理解出来るか分かりませんが、委員会メンバーが一人でも多く出席していただけるよう、又、見捨てられる事のないよう努力して行きたいと思っておりますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

経営委員会 門脇浩二

今年度経営委員長の門脇です。今年度は私自身30代最後の年ですし、私なりに中央会をエンジョイしたいと思います。「綱領」の英知、友愛、団結のことばを心の中におき、がんばりたいと思います。

「経営委員会のメンバー達と知的感覚でいろいろな事を学び、皆で旨い酒飲んで人的交流を行います。一年間宜しくお願いします。

情報メディア委員会 谷口 勉

私は、今年度の構成メンバーでは唯一の継続委員であります。私は常々、仕事や中央会活動をとおして、人格の向上を目指し真の生き甲斐を追究しようと考えておりましたが、それとは裏腹に、心を動かす悪い誘惑にすこぶる弱く(特に酒と女)、いつも同じ道をたどるようです。今年度のテーマは、伝達です。伝達がうまくできないで子孫繁栄など考えられません。ちょっとしたやり方で違ったものができたり、表現によって結果もよくなったり悪くなったりもします。コミュニケーション不足が益々激化していく今日、PHS、FAX、電子メール、パソコン通信等々の便利な情報メディア機器は、どんどんエスカレートしていくでしょう。反面、昔ながらの人と人とのふれあいは、これに反比例して鈍化していくと考えます。ここを切り口とした委員会活動が出来ればと！あくまで自然体でのごみまます。

指導力開発委員会 堀田 収

本年度松本会長は、所信の中で、「青年中央会の活動が実際の仕事に役立つように」ということをおっしゃいました。私達の指導力開発委員会では、青年中央会の綱領にある英知・友愛・団結の精神が、それぞれの仕事で発揮されるように、少しでも役立ちたいと考えています。

私達の委員会は、メンバーが自分の仕事や経営について思うことを、それぞれの立場から発言してもらい、みんなでディスカッションすることで、すすんでいきたいと思っています。メンバー相互が遠慮なしに、信頼感を持って、楽しく語り合いたいと思っています。そして、メンバーにそれぞれの仕事のやりがいを、改めて見つめてもらえたらと願っています。

広報委員会 畑中経之

今年の広報委員会は、「ハンサム・雄飛」「インターネットホームページ」と大忙しの1年間になると思われます。これらの作業を完成させて行く為には、広報委員会全員が1つとなって効率良く作業を進めて行く必要があります。その為にも1年間の目標を『全員参加の広報委員会』として特定の人に作業が集中しないようにし、全員が委員会活動に参加し、さらに委員全員の皆さんの意見や発想が聞ける委員会にして行きたいと思えます。これらの作業は月1回の委員会と、編集会議の範囲で消化して行きたいと思えますので、広報委員会委員の皆さんのご協力と、原稿や取材をお願いいたしました会員の皆様のご協力をくれぐれも宜しくお願いいたします。

総務委員会 松田 則一

総務委員長という、素晴らしい自己研鑽の場をあたえていただき、本当にありがとうございます。今年度、総務委員会では「交流」をテーマに会員相互の親睦はもちろん、委員会ベースでの交流を検討し、各委員会内の団結そして西部青年中央会の結束をはかっていただくようにと考えています。中央会活動に、一人でも多くの会員の皆様に参加していただく事こそ、総務委員会の活動だと思っています。今年度一年間、委員会メンバーの皆さん、そして景川担当副会長の助けを借りながら、会員の皆様に有意義に楽しんでいただける行事を考え、実行していきたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力よろしくお願い致します。

平成8年度 県総会 開催される

7月27日(土)15時より、鳥取市今町「ホテルニューオータニ鳥取」において、鳥取県中小企業青年中央会第22回平成8年度通常総会が開催された。油谷県会長が議長に選出され、平成7年度の事業報告・収支決算、平成8年度事業計画・収支予算計画について審議を行ない、議案通り承認された。

また、今年度の県会長に中部青年中央会の森 敏昭氏が選出され、新役員の名簿が行なわれ、新体制がスタートした。県総会に続き、OBであり、元県会長であった常田享詳参議院議員の記念講演が行なわれた。演題は「環日本海時代—創造への挑戦」であり、常田氏が参議院議員として、中央に出てみて、各省庁においてこの鳥取県がどのようにとらえられているかなど、実体験に基づいて感じられたことなどを中心に講演された。

<平成8年度 県青中役員>

会 長	森 敏昭	理 事	矢 谷 英 志
直前会長	油 谷 博 文	同	中 山 弘 美
副会長	米 村 年 博	同	倭 島 昭 博
同	水 谷 正 弘	同	中 村 和 夫
同	松 本 敏 啓	同	桜 井 博 幸
監 事	中 島 敏 彦	同	長 棟 志 郎
同	中 木 勉 秀	同	市 位 清 一
同	秋 田 導 秀	同	樋 口 夫 己
		同	門 脇 直 己



西部青年中央会 通常総会 開催!



平成8年度通常総会は7月15日(月)にホテルサンルート米子に於いて開催されました。一年間の大役を終えた阿部会長の挨拶は、会員が考えている以上にこの地域での当会の存在が認識されてきており、我々の一挙手一投足が注目されていること、また他団体よりプライドの持てる組織にしていかなければならない等、会長を経験された上での実感のこもったものでした。そして一年を振り返ってよくやったと自分を褒めてやりたいという言葉の中にいかに会長が力を注いでこられたかが伝わる挨拶でした。

秋田副会長の議事進行で7年度事業報告、収支決算報告、8年度事業計画、収支予算承認もスムーズに終わったところで、卒業生への感謝状贈呈が行われ卒業生を代表して吹野氏の挨拶がありました。引き続き10名の新入会員へのバッジ授与式が行われ通常総会が終了しました。

引き続いて30名のOB会員も参加して懇親会に移りました。松本新会長は挨拶で「自己変革」をスローガンに掲げ、切磋琢磨して今までに築き上げられたものの上に新しいものを築きたいとの今年度の方針の表明がありました。またこの一年は青年中央会にどっぷりつかるとりという言葉の中に新会長の意気込みの程が感じられました。

親会の有田専務理事、手島OB会長の来賓祝辞の後、商工中金齊藤米子支店次長様による乾杯で歓談に移りました。精勤賞と皆勤賞の表彰の後委員会表彰があり、優秀委員会には倉敷委員長の政治行政委員会そして最優秀委員会には市位委員長の総務委員会が決定しました。また青年中央会に発足したゴルフ同好会と野球部の紹介の後にトライアスロン出場選手の壮行会が行われました。壮行会といえなくてはならないこの人・・・中島太郎応援団長の名調子?により「生きて帰れ」こと長谷川一成、「一匹狼」こと松岡正高、「黒い弾丸」こと和田健二、「兼業選手」こと野嶋功の4選手の激励を行ない、今年の活躍と無事を祈りました。壮行会の余韻の残る中OB会の鶴田氏のご発声による万歳三唱で懇親会は幕を閉じました。



中央会選手 みごとと全員完走！

第16回皆生大会を終えて **野嶋 功**

先日は、私たち選手のためにスタッフ、ボランティアとして数多くの会員の皆様にご協力、励まし頂き本当にありがとうございました。お陰様をもちまして、8回目の完走を果たすことができました。(出場9回)

結果だけをみれば、タイムは10時間14分(昨年10時間2分)で579名中165位(同195位)と順位的には昨年を上回ることができたのですが、正直言いまして今年は、近年になく体調が良く、また大会前の練習会などでは、結構いいタイムを出しており、内心そこそこ行くんじゃないかと期待しておりました。



水泳は、スタート時には激しいバトルで殴られ蹴られしながらも、秘密兵器の新調したウェットスーツが威力を発揮し49分台と自己ベストで上がることができ、バイク以降に期待が大きく膨らみました。

しかし、気持ち良くレースできたのは、ここまでで70位くらいでバイクに移ったのですが、以降は後続の選手に抜かれるは抜かれるは、まだこんなに選手がいたのと驚くほど。気持ち良くパスされました。大山の上りに入ってもこの状態が続き、恐らく100名位は順位を落したと思います。もともと自転車はそれほど好きな種目ではないので、抜かれてもそんなに気にしないほうなのですが、女子選手にまで簡単に抜かれた時には、かわいなお尻だなんて呑気な気にはなれませんでした。中山町の第2折り返し以降は、順位も安定したのですが、相変わらずピッチは全く上がらず、加えて左足の大腿筋が痙攣して、ランニングに不安が湧き出しました。それでも、沿道の声援には笑顔で応えるくらいの余裕はあったのですが、それもここまででした。

ランは今年は、なんと世界的トライアスロンコーチであるドクター・フィリップ・マフェトン博士をアメリカより招きセミナーを開催して、その理論に基づきトレーニングをしていたので、金をかけた分だけは早くなっているはずでしたが、もともと練習時間が一般選手の半分くらいなので、境港の折り返しまでに50人位順位を上げて130位まで上がったのが精一杯、以降はまたバイクパートの再現でどんどん順位を下げてしまいました。

再び米子に戻ってきた頃には、疲労もピークに達し2本の脚が自分の意思ではコントロールできないほどボロボロになって、多分歩くのとそんなに違いのないスピードで走っていたと思います。

皆生大会のようなロングの大会で結果を出すには、練習量、練習内容、コンディショニング、メンタルコントロールと色々な要因をコントロールすることが必要です。なかなか難しいことですが、だから一度やったら止められないのがトライアスロンなのです。

もう暫く、皆様にはご迷惑を掛けるかとも思いますが、選手たちの我儘の為、ご協力下さい。

暑い1日、本当に私を始め、多くの選手たちに温かい声援を頂き本当にありがとうございました。完走した選手たちだけでなく、終日サポートしていただいた皆さんこそ鉄人という称号に相応しい強く、優しい人だと思います。

一生燃焼 一生感動 一生不悟



2回目の皆生を振り返って **長谷川 一成**

いやー、しんどかった！これが2回目の皆生を終えた偽らざる心境です。ぶっつけ本番、無謀のスイムで、一気に足を使ってしまい、げっちょから3番目で上陸、今年はえらいレベルが高いなどがっかりしながらガランとしたトランジションを横目にバイクに突入。ここら

りから背中を焼き焦がすような太陽の照りつけに苦しみ、練習量は去年より多かったはずのバイク全く奮わず、去年を大幅にオーバーしてバイクゴール。そして灼熱地獄のランに突入。でも、以外と快調だったのがこのランでした。境港市市民会館までの往路はセーブ気味に走り、復路もセーブ気味に走ってしまいましたが、残り15キロ

りから徐々にピッチが上がり、2人の娘と一緒にゴールまで完全燃焼のランでした。昨年

の教訓を何一つ活かすことなく、夢中の内に終わってしまった2回目も皆生。練習不足と調整不十分の足腰とで立ち向かった2回目の皆生。でも、今年は絶対歩かんと心に誓った2回目の皆生。色々な意味で手応え十分の2回目の皆生でした。皆さんのご支援に心から感謝いたします。

大会を振り返って **松岡 正高**
フィニッシュ・ストリートを走りながら今回はよくも出場でき、完走したと思った。一年間、体調を維持し続けることの難しさを感じました。

レースを振り返って見れば、スタート前の武海君のエール、スイムの時、蹴られ、殴られ、ゴーグルに海水が入り片目で泳いだ事、柴谷君家族の手作りの看板によるあたたかい声援、バイクコースでの“ガンバレ”の声援、ランコースに入って東亜青果A.S、しんかわストアA.S(中村OB、多賀君)、境港市市民会館A.SなどにおけるOB・会員からの激励及び叱咤などが思い出します。

昨年とくらべ、約一時間も遅く、みなさんの期待に添えませんでした。いつもゴールは感動よりも、もう走らなくても良いという安心感からホッとします。今年も長い期間、スタッフ、ボランティアとして大会に係わってきた会員及びその家族のみなさん、ごくろうさんでした。楽しい時間を与えていただき感謝しています。

暑い・長い一日を終えて **和田 健二**

今回で、11回目の「全日本トライアスロン皆生大会」への挑戦であった。例年になく思うように練習ができず、あれほど毎日のように通っていたPAJ Aスポーツへも3月から1度も行けなかった。練習不足を短期間でカバーしようと詰めて練習した為、3週間前に過去10年以上経験をしなかったフクラハギの肉離れをおこしてしまい、大会のその日まで、出場するかどうか迷ったのも今回初めての経験であった。

当日はフクラハギに痛みがあったが、女房には痛みは取れたと嘘をつき11年間連続出場という他人にとっては何の意味もない拘りに縛られて、スタートラインに立っていた。いつもはスタートラインの前列に立っていたが今年は、最後尾からのスタートであった。これも初めての経験であった。

スイム～バイクと何とか事故もなく終え、後は問題のランであった。スタートする時にフクラハギに痛みがこないようにコツと走り始めたが、世の中そんなに甘くはない。観光会館付近ですでに痛みが走った。境港に向かって行くか、棄権をするか暫く立ち止まって考えた結果、行くところまで行くしかない結論を出した。

途中辛くて棄権を何度も考えましたが、途中のエードステーションや沿道では、会員の皆様に溢れるほどの声援を受け11時間30分のパフォーマンスを無事終了する事ができました。ほんとうにありがとうございました！


私が青年中央会の会員でなければ今回ほどの溢れる声援を頂くこともなく恐らくゴールすることはできなかったと思います。今年ほどトライアスロンは、一人では完走できない競技だと感じた年は始めてでした。こんな、トライアスロンが私は好きです！来年も懲りずに12回目に挑戦します。

「来年は9時間のパフォーマンスのご声援をお願いします」

●●●●●●●●●● 新入会員紹介 ●●●●●●●●●●


新入会員カルテ
氏名: **角 好明** 血液型: O
企業名: 有限会社角建設

今日は、この度青年中央会の一員に加えてもらう事になりました角好明と言います。仕事は、境港市で土木工事業を主体にした角建設で仕事をしています。1年位前から夏山君の誘いを受けていたのですが、今年の5月頃に、境港の会員の方々と出会う機会があり、入会を勧められて、中央会の事はよくわからないままに入会しました。年齢制限関係の入会なので、5年間の在席期間しかありませんが、会の活動のなかから得た知識を、私なりに活用したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。




新入会員カルテ
氏名: **平 新武志** 血液型: A
企業名: 株式会社工ツグ

この度、入会しました平新です。余り無い名字ですので、すぐ覚えて頂けると思います。中央会とは、一体何だ!! 何をしたら?何をすれば?まずそこからのスタートです。入会して、まず感じた事は、先輩が後輩だOBだと言った様なまるで、学生時代に戻った様な言葉が飛び交い“体育会系クラブ”といった感じがしました。入会審議、初の委員会の席では、とても緊張した気持ちになり、その緊張感を忘れない様がんばります。皆さん、どうぞ宜しくお願いします。




新入会員カルテ
氏名: **茅 野康洋** 血液型: B
企業名: 株式会社茅野組

はじめまして今年入会させていただきました茅野康洋です。学校卒業後、1年余り鉄鋼関係の会社に勤めておりましたが、都合により現在の茅野組に入り、もっぱら勉強中です。趣味はスキーと旅行です。学生のときはよく旅行、スキーを楽しみました。まだ何も知らないことだらけの25才の若輩者ですが、若さを生かし、何事にも挑戦・参加し、異業種の皆様からたくさんのご意見を学び、視野を広めて頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。




新入会員カルテ
氏名: **夏 野慎介** 血液型: B
企業名: 米子信用金庫駅前支店

この度は、入会にあたりご承認いただきありがとうございます。私は、昭和33年生まれで38才、男ざりであり、昭和56年3月、唯一合格した大阪経済大学を無事卒業し、これまた地元で唯一合格した米子信用金庫に入庫、現在に至っております。今の体型からは想像できないのですが、趣味はサッカー、スキー、トレッキングと体育会系の人間です。中央会の会員として公私共に精一杯頑張りたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。




新入会員カルテ
氏名: **松 本義紀** 血液型: A
企業名: 株式会社ケー・オー・エイ

この度、入会させていただきました(株)ケー・オー・エイの松本義紀です。私自身、入社10年目の年にして、いい舞台を与えていただいたと思っております。この会において自分が何が出来なのか、貢献出来るもの何なのかを考えながら、とにかく一生懸命汗をかき、頭を悩ませたい、思う所存でございます。また、会の活動をどうし異業種の皆様との交流を大切に、自己を高めていきたいと思っております。宜しくご指導願ひ致します。




新入会員カルテ
氏名: **萬 田寿夫** 血液型: AB
企業名: 鳥取県西部トラック事業協同組合

この度、牛込敦彦様と長谷川義明様のご推薦を頂き、入会させて頂きました萬田です。自己研鑽の場として、人生最高の舞台を与えて頂いたと大変嬉しく、かつその行動と責任に対し重く受け止めております。何分にも勉強不足にて、今後皆様方にご指導頂き、精一杯学びたいと思っております。今後、一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。




新入会員カルテ
氏名: **蔵 本晴美** 血液型: B
企業名: 有限会社大工屋

この度、小原、長谷川両氏の推薦により入会させていただいた蔵本です。会社を初めて1年、まだまだ仕事に追われる毎日、それをこなすだけで精一杯という感じがします。しかし、中央会入会という良い機会を得て、「自分の仕事だけを…」というのではなく、社会全体の流れを把握し、少しでも誰かの役に立てよう努力していきたいと思っております。そのためには、諸先輩方のご指導のもと、会員として一生懸命動かせていただきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。




新入会員カルテ
氏名: **大 田修一** 血液型: A
企業名: 大田鮮魚有限会社

はじめまして、この度「中央会」に入会させていただきました、大田です。私くし、地元の学校を卒業後3年程東京Uターンして地元に戻って来た者で、こちらの「中央会」へは「米子のこと」をよく知りたく思い入会致しました。若干「25才」といった若輩者ではありますが、委員長ならびに諸先輩方々の足手まといにならぬ様、一生懸命頑張りたいと思っておりますので、御指導の程宜しくお願ひ致します。




新入会員カルテ
氏名: **柴 田一正** 血液型: AB
企業名: 株式会社米子国際ホテル

初めまして、この度桑垣さん、門脇さんのご紹介で青年中央会に入会させて頂くことになりました(株)米子国際ホテルの柴田一正です。会社では、入社以来経理課に所属して16年が過ぎました。何分裏方の仕事で表に出る機会が少なかった私ですが、この青年中央会をきっかけに、さらなる自己の向上と会社の発展、そして会のお役に立てる様頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



新入会員カルテ
氏名: **岡 本康朋** 血液型: B
企業名: 株式会社中井備米子店

この度、青年中央会に入会させて頂くことになりました(株)中井備の岡本康朋です。私どもの会社は主に時計、宝石、メガネを販売しています。私自身会社に入社して21年になり40才手前にして今回青年中央会の話の聞き、私が今まで携った事のない活動に興味を持ち、新たな知識を吸収して精一杯頑張りたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



特集

第16回 全日本トライアスロン皆生大会



私のトライアスロン

競技委員長 松岡 晃

第16回全日本トライアスロン皆生大会が多くの会員の方々の御支援、御協力を頂き無事成功裡に終える事ができ本当にありがとうございました。

会員の皆様方も選手とのふれあい、そして多くの感動を体験されたかと思えます。

私がトライアスロンと出会ったのは第6回大会であり、1回だけのボランティア活動の気持ちで参加させて頂きました。その時の選手との触れ合いをへてフィニッシュロードより伝わって来る感動が今でも込み上げてくるくらい脳裏に焼きついている。それからの大会はマラソン部スタッフとして手伝ってきた。その後これはやはり選手として出るべきだ...と思いをいだきかすかな希望を胸にいただき練習にいそしんだ。

しかし、途中で挫折してしまい自分はやはりスタッフとして自分に出る限りの協力をして行くことに執念を燃やすことにした。

副部長、部長、副競技委員長と務め、そして競技委員長その間中央会の方々より叱咤激励をいただいていた。委員長への相談を受けた時これは受けるべきではないと心の中で決めていた。自分も会員の立場であり会の方の方針等考慮すると受けられ

第16回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

マラソン部長 景 幹 雄

先ずは、副部長以下スタッフ及び、大会翌日まで協力して頂きました有志の皆様、ご苦労さまでした。

今年は、マラソンコースの夜見地区の変更にともない境港市役所付近で大幅なコース変更を行ない、マラソン部スタッフは例年になく大変忙しい思いをさせました。第16回全日本トライアスロン皆生大会のマラソンコース上で大きな事故も問題もなく終えたのも6月初めから大会当日までスタッフそして有志の皆様の準備作業結果と、大会翌日の後片付けに協力して頂いたお陰だと思っています。

マラソン部長という大役を任せられ、最初は不安でいっぱいでしたが、皆様の御指導、御協力のもとで事故なく無事達成する事が出来ました。1人の力よりは2人の力、2人の力よりは3人の力。多数の力を持ってすれば600名の選手全員を無事にゴール迄!!とそれを願って頑張りました。皆様本当にありがとうございました。



ない、その思いが交差する中で抽象的な批判、特権意識等言われていく中で、これは大会を運営していく上で私を必要としていただけるなら、個人的に引受け、大会への思いを燃焼させてみようと思ひ現在の競技委員長として取り組みが始まった。

初めは、頭の中ばかりで何か空回りばかりし、あせりもあった。しかし何年前かに中央会の中で「皆生トライアスロンの今後どうあるべきか」を検討した事を思い出しながら、前回の大会より一つ一つ改善を行うことを心がける様つとめたが、全体的に分かっていたつもりであったのにも係わらず、細かい点が見えなかった事が多く有り反省し、そしてまた勉強にもなった。

現在大会を毎回開催して行くに当り将来の大会のビジョンが見えてない事が一番の問題である様に思う。また全国でロングの大会が5ヶ所ある中でトライアスロン発祥の地として歴史ある大会であるにも係わらず皆生大会としての魅力が失われつつあるのではないかと心配するところでもあります。

自分なりに、危機感を持ちながら将来の有りべき大会として見た時、発祥の地の大会と全面的に出し地方から日本全国に情報を発信しているものは、鳥取県内で唯一の大会であり、鳥取県の財産である事を忘れずに米子市として鳥取県をあげて大会の位置付けをしていくことが大切である。

皆生大会は歴史の長さ、自然の中で風光明媚かつ変化に富んだコース、人情味あふれるボランティアの人々の素晴らしさ、この様な点を見失うことなく全国より参加いただく選手の方々に良い印象、良い思い出を持って帰っていただける大会へと考えています。

トライアスロンも西暦2000年のシドニーオリンピックから正式種目と認定され近年人気は益々高まっている中、地元より小原工君がプロとして頑張っています。

世界でもっとも過酷にスポーツに参加し協力することを通じて皆が互いに理解を深め友情の絆を強めていくには一番良い場であると私は思っております。

今後とも会員の皆さんの絶大な御協力、御理解をいただきます様お願い致します。

ボランティア部長 畑中 経之

ボランティア部長のお話をいただいた時は、不安がありながらも何回かボランティア部のお手伝いをさせていただいた経験から「内容はだいたいの事は知っているつもり」で活動に取組みましたが、終わってみれば「知らない事が多すぎた...」と言うのが実感です。そういう中で、ボランティア部の任務を無事終了する事ができましたのも、2ヶ月近くに渡って準備作業をしていただき、当日は一日中走り廻っていただきましたボランティア部員の皆様のおかげです。さらに東亜A・境港市民会館Aで炎天下の中、終日サポートをしていただきました会員の皆さんに紙面をかりてお礼を申し上げます。

大会を終えて、選手の皆さんや競技スタッフの皆さんから、ボランティア部の活動に対して、お礼や、お誉めの言葉を沢山いただきましたが、その反面改善しなければならない部分もいくつか出てきています。来年の17回大会がより良い大会になるように、17回のスタッフの方へ確実に内容を伝えていきたいと思っています。



松岡



野島



和田



長谷川

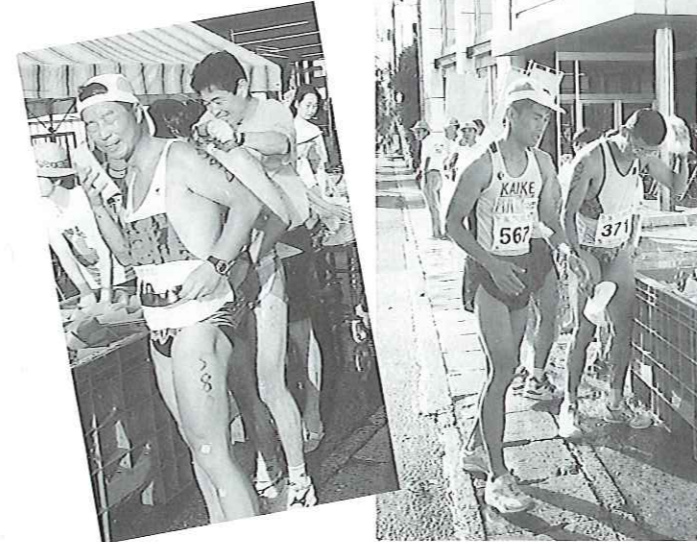


86 721

東亜青果エードステーション

秋田 導 秀

今年も暑い夏が始まった。AM6:30 青年中央会メンバー3名の選手を皆生海岸で激励した後、東亜エードステーションにAM8:30集合した。今年7月に入会したメンバーを含め7人で設営を開始し、10:00には満を持して体制を整えた。正午前には、トップと2番手が相次いで通り抜ける。水泳、自転車を終えた選手とは思えない程の馬力だ。その頃になると、阿部直前会長、松本現会長を含め多くの中央会メンバーの顔がそろった。今年は東部青年中央会、中部青年中央会からも15名の応援を得て、エードステーションの業務をこなした。青年中央会も年々会員が減少しており、ポイントの交通整理に苦勞するが、次々と通り来る選手の姿を見ると我々もボランティア精神が熱く



境港市民会館エードステーション

岩田 慎 介

真夏のイベント皆生トライアスロンが灼熱の太陽の下で今年もとり行なわれました。振り返ってみると怠け者のこの私が中央会入会以来、このトライアスロンのボランティアだけは、ほとんど参加しているように思います。それはやはり「人間の限界への挑戦」これに対する感動・尊敬・羨望、そして自分の失われた何かを選手の方々に代わりに托しているそんな心地良い気持ちが忘れられないからだと思っています。今回、境港ADが境港市役所から初めて境港市民会館にかわり、不慣れで何かと準備に苦勞しましたが、選手の方々からも遠くなったような気がするという意見が多かったようです。それでも境港ADに到着の時には、今年特に多かった女性ボランティアの方々の黄色い声援を受け元気を取りもどし再走された選手が多かったように思います。中には名物の団子汁を楽しみに毎年来ているという選手もいたそうです。

最後に、先程も申しました通り、今年は境港ADの変更により、



なる。単なる割当をこなすという感覚ではなく、どっぷりとボランティア活動につかることの楽しさを改めて知ることができた。PM9:30を過ぎて最後のランナーが通ると、何とかタイムリミットに間に合うようにと全員が心から願い、我々も言いようのない満足感に浸っていた。選手とともにこのような感動を与えて頂いたことを関係各位、東亜青果の皆様に感謝したいと思います。



ポイント数も多く、青年中央会の境港メンバーの中には、長時間立ちっぱなしでさながら選手のように真っ黒に日焼けして頑張っていた会員の方もおられました。本当に御苦労さまでした。そして、鳥取銀行、境港ソロボチの方々又は、境港会員の家族、社員、その他多くの皆様の協力が無事1日を終えることが出来ましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。